

平成30年度の

「農業」を振り返る

園芸

野菜全般

春作業は天候にも恵まれ順調に経過しましたが、5月18日の大雨により冠水被害を受けた圃場もありました。

6月中旬、8月中旬の低温や日照不足の影響を受け、野菜全体的に出荷量が減少しましたが、販売単価は全般的に高く推移したため、販売額は前年を上回りました。

「枝豆」

作付面積69ha(前年対比125%)、出荷数量150トン、販売額1億23万円と念願である販売額1億円を超えることができました。

生分解マルチを使用した栽培によって、マルチ除去作業や廃棄作業が不要にな

るなどメリットを活かし、マルチ栽培においてもトラクター収穫可能な栽培体系を確立いたしました。また、洗浄機、脱水機の追加配備をすることで、収穫後の作業がスムーズになるよう環境を整えました。



穂積志秋田市長へ販売額1億円達成を報告
(10月15日)

「ダリア」

作付面積5.2ha、出荷数量26万本、販売額4000万円と計画に対しては未達であります。年々販売額が増加しております。全国的にも各産地での気象による被害があり、出荷量が少なく、高単価で推移いたしました。7月の生育期では一部において高温障害や生育停滞の被害が散見され、また出荷時期では大型台風

の影響により一部において塩害や花キズ等の被害がありました。結果的に被害は最小限に留まりました。販売促進活動では、県外においてのトップセールスをはじめ、出荷最盛期に合わせた青山フラワーマーケットのイベント実施、また県内の普及イベント活動など積極的に



秋田市スイーツフェスタ
(9月29日)

16 14 12 11 10 08 06 02

- 16 平成30年度の農業を振り返る
 - 14 ニュース・トピックス
 - 12 農業を続けるための災害対策(後編)
 - 11 キラツと女性部
 - 10 おらほの青年部
 - 08 健康コラム
 - 06 ふれあい広場
 - 02 インフォメーション
- 今月のあさごはん



INDEX